

受賞内容に関して

2013年にリマーカブル・プロデューサー・オブ・ザ・イヤーを受賞させていただきました。作品は、本田技研工業の「Sound of Honda / Ayrton Senna 1989」です。

当時を振り返ると、プロデューサーとして代表作というか、自分のポートフォリオの一番最初にくる作品を作りたい、と考えて、チャレンジを続けていたと思います。とにかく、プロデューサーとしてのキャリア形成の危機感から、名刺代わりになるようなものを追求めていました。結果的に、JACアワードで受賞させていただき、経歴の一つに加えることができました。ただ、あくまでもアワードはきっかけでしかないで、その後に続くキャリアにおいて、ポートフォリオの更新が自分にとってはもっとも大事だと思っています。

応募できる皆様は、受賞するかどうかではなく、日々の超多忙な業務の中、立ち止まって自分を客観的に分析する時間にもなると思っていますので、思い悩んでいる方、壁にぶつかっている方こそ出品していただけると良いと思います。応援しています。

今の仕事に関して

受賞した2013年頃はTVCM制作がメインの案件となっていました。ただ、段々と変化していき、現在はTVCMだけでなく、映像を中心に様々なコンテンツ制作に関わらせていただいています。主な作品として、TOKYO2020 Olympic 100m決勝プロジェクション演出、Honda企業広告「Hondaハート」「VEZEL」「Roadmovies+」、町工場×音楽の「INDUSTRIAL JP」、YAKUSHIMA TREASURE ANOTHER LIVE、森ビル「Designing Tokyo」、NTTドコモ「KAZE FILMS docomo future project」、朝日放送テレビ「M-1グランプリ」、リクルート/企業広告「Follow Your Heart」、JUJUカバーアルバムAR施策、大阪・関西万博誘致映像、NHK Eテレ「へんてナ」などです。JACアワードの年が転機となり、TVCM制作経験を基盤として、自分のプロデュース領域が拡張していったのは間違いなく、進んでいく方向性を肯定してもらった感じがしています。ただ、受賞してから周囲に大きな変化があるわけではなく、やはり自分自身の努力が必要だと感じました。当時の危機感、悩んでいた気持ちや仕事への熱意を思い出し、大変なことがあっても前向きに頑張ろうと思えるのは、JACアワードに出品した経験のおかげかもしれません。



Dentsu
Craft
Tokyo

プロデューサー / 藤岡将史